

令和6年度 事業報告

本学園の主要財源は学生生徒等納付金収入、及び国・地方公共団体からの補助金収入であり、中でも学生生徒等納付金収入は近年の学生動向により安定した主財源となっている。また、各種補助金や外部資金の導入も重要であると考え、受託研究事業、科学研究費補助金、教育研究振興募金事業等の外部資金の獲得に積極的に取り組んだ。さらに、資金運用にて受取利息配当金収入の増加につなげた。

北海道情報大学においては、9月5日（木）～7日（土）に世界レベルの工学教育を推進するCDIO国際会議を道内で初めて開催した。アジア地域の37機関から144名が参加し、学内外に本学の教育研究活動を発信するとともに、今後の教育研究の方向性を示す良い機会となった。また、学生を対象とした「国際情報プログラム」をスタートさせ、国際情報化に適応できる国際性豊かな人材の育成をさらに発展させている。

通信教育部においては、オンライン学習環境のDX化や教育センターとの連携強化を図り、通信教育を改革すべく実践教育に取り組んでいる。

北海道情報専門学校においては、少子化が進む中、学生数が減少傾向にあるものの道内専門学校約120校の中で、学生数道内最大規模を誇り安定した経営状況を維持している。また、ICT教育の伝統と実績を有する専門学校として「産・学・研」連携による最新技術・最先端の教育により、情報処理技術者試験で全道一位の合格実績を上げることができた。特に高度種の資格では全国専門学校第一位の実績を上げている。

就職実績は大学が97.2%、専門学校が99.6%と、両校ともに高い就職率となった。

令和6年度に本学園が実施した主な事業は、以下のとおりである。

（1）北海道情報大学（HIU）

- ① 建学の理念である「情報化社会の新しい大学と学問の創造」を継承しつつ、「Quality First」をミッションとして策定した「HIU Vision2025」を反映した「第3期中期目標・中期計画(2021年度～2025年度)」の4年目として、2024年度計画を確実に推進した。また、教育活動等の計画について点検及び評価を実施する点検評価委員会に学外有識者3名を加え、より質の高い自己点検評価を行う体制強化を図った。
- ② 異文化を理解し、国際感覚に優れた人材を育成すべく、CDIO国際会議の開催や「国際情報プログラム」をスタートさせた他、タイの学生とのワークショップである「国際コラボレーション」など、短期留学プログラムの見直しも行った。
- ③ 教育におけるDX（デジタル・トランスフォーメーション）を図るため、DX推進センターを中心に、ICTを用いた反転授業の促進及びPBL（問題解決型学習）の普及、メディア教育センターと連携したメタバースキャンパスやVR教材の開発など情報教育の基盤構築を行った。

- ④ 入試広報活動においては、高校訪問や直接接触を基本としつつ、オープンキャンパスの内容充実のほか、高校での進路ガイダンスや出前講義に加え、探求学習の支援も行うなど、広報の質向上に取り組んだ。資料請求や直接接触などの引合者は昨年に引き続き増加したものの、志願者数の減少、合格者の入学歩留まり低下により、令和7年度入学者は昨年より減少した。
- ⑤ 通信教育部においては、令和6年度から学科名称変更と収容定員変更を行うとともに、LMS（学修管理システム）による学修支援機能を促進させていくことで、他大学との差別化を図った。また、通信教育改革推進会議（タスクフォース）において、メタバースや生成AIを活用した学修者適応型支援や、ICTを活用した新しい教育サービスの検討を進めた。
- ⑥ 本学・江別市・農研機構・島津製作所・セルフケアフード協議会との共同で進める、10年間のコホート研究「江別いきいき未来スタディ」2年目を実施し、約1200人の江別市民を対象に食と認知機能に関わる健康調査及び研究では学内3学部との共同解析等を実施した。また、内閣府の第3期戦略的イノベーション創造プログラムにおいて、AYA世代（思春期～30歳代）を対象にした食と健康に関わる「マイライフ健康調査」及び同世代の健康課題解決に向けた研究開発を実施した。
- ⑦ 校舎保全5ヵ年計画の4年目として、屋上配管更新工事やトイレの改修工事などを行った。その他、校舎棟1号館の空調工事を行ったことで、全教室へのエアコン設置工事を終え、快適に学修できる環境を整えた。
- ⑧ 教室のAV設備として、ゼミ室等に液晶モニターを設置したほか、研究室内無線LAN機器の増強、実習室やLL・メディア実習室のパソコン及びコアスイッチやルーターなど学内基幹ネットワーク機器の更新を行うなどICT環境をより充実させた。

（2）北海道情報専門学校（HCS）

- ① 募集活動では、『Quality First』を念頭に、安定した学生確保を実現するために、高い実績をあげている「資格実績」、「就職実績」、「コンテスト」を広報の三本柱として展開した。
- ② 教育実績の魅力を上回る大学志向の強まりからオープンキャンパスなど自校内行事への参加が減少傾向に推移し、令和7年度入学者は減少した。
- ③ 情報処理の国家試験において、以下の合格実績を上げた。
 - <レベル4：高度な知識・技能>
 - ・情報処理安全確保支援士 38名（全国専門学校1位）
 - ・データベーススペシャリスト 13名（全国専門学校1位）
 - ・ネットワークスペシャリスト 4名（全国専門学校1位）
 - <レベル3：応用的知識・技能>
 - ・応用情報技術者 68名（全国専門学校1位）
 - <レベル2：基礎的知識・技能>
 - ・基本情報技術者 205名（道内専門学校1位）

- ・情報セキュリティマネジメント 98 名（道内専門学校 1 位）
- その他、検定成績の実績として
- ・公益財団法人 画像情報教育振興協会（CG-ARTS）が主催する CG-ARTS 検定を受験した学生 2 名が成績優秀により文部科学大臣賞を受賞した。
 - ・一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団が主催する J 検（情報検定）を受験した学生 2 名が、成績優秀によりそれぞれ文部科学大臣賞・職業教育団体優秀賞を受賞した。
- ④ 就職活動は順調に推移し、HIU との W スクールである大学併修科(4 年制)はその特徴から 7 月下旬に 100%就職内定を達成した。全体においても就職内定率が 99.6%と好調に推移し、この実績を広報に展開した。
- ⑤ 技術レベルの評価、学習意欲の向上及び就職活動を有利にする観点から外部コンテストに積極的にチャレンジし、以下の実績を上げた。
- ・北海道起業家甲子園 2024（主催：北海道総合通信局）で道内大学生等が参加する中、最優秀賞を獲得し全国大会に出場した。副賞としてアメリカシリコンバレーでの研修に招待され参加した。
 - ・第 21 回ビジネスプロデュースコンペティション 2024(主催：一般社団法人全国専門学校情報教育協会)では準グランプリを獲得した。
 - ・HOKKAIDO 学生アプリコンテスト 2025(主催：北海道モバイルコンテンツ・ビジネス協議会)では 4 チームが最終審査に残り全チームが企業賞を受賞した。
 - ・SCC アプリコンペ 2024(主催：(株)SCC)で本校チームがアイデア部門で準グランプリを獲得した。
- ⑥ 校舎保全 5 年計画はすべて終了している。設備関連では、2 号館内の 2 教室において最新の PC(89 台)を導入し、ネットワーク環境や教材研究用 PC の整備を行った。また、4 教室に特注ノート PC 格納デスク（PINE デスク）、2 教室に学生用椅子の入れ替えを行い、本校舎の 2 教室には電子黒板を導入するなど、教育設備・教育環境整備を継続して進めている。

以上